

# 栃木で歳末炊き出し

栃木市の社会福祉ボランティアや団体による歳末炊き出しが二十九日、同市境町の瀬戸河原公園であり、

生活困窮者ら約二百人が温かい食事を味わった。炊き出しは二〇一一年に始まり、五回目。この間の困窮者を取り巻く社会環境について、関係者らは「全く改善されていない」と、行政の無策ぶりを批判した。  
(中川耕平)

# 困窮者 やまぬ寒風

## 「社会環境 全く改善されず」 「安倍政権 弱者には冷たい」

の者  
運営関係

寒風が吹き付ける中、正午に炊き出しが始まると、焼きそばや、けんちん汁などを求めて長い行列ができた。餅つきもあり、参加者はつきたての餅を使った汁粉や雑煮を味わった。会場では、ギターの弾き語りや草笛の演奏、古着の無償提供もあった。

「困窮者の置かれている状況は変わらずに悪い」  
初回から運営に関わるNPO法人理事の内海成和さん(仮名)は、そう話す。

炊き出しは景気が落ち込み、困窮者の増加を受けて始まった。運営は全てカンパで賄う。当初は数十人規模だったが、この二、三年は二百〜三百人が集まる。

内海さんは「政府は『一億総活躍』と言うが、一部の限られた人間にしか活躍



炊き出しの焼きそばを求めて並ぶ参加者ら＝栃木市で

できる場が与えられていないのが現状だ」と憤る。  
実行委員長の内海上中さん

「へもは、本紙『平和の俳句』の選者で、俳人の金子兜太さんが揮毫した「アベ

政治を許さない」のポスターを背中に入れて参加した。「安倍政権の弱者に対する視線は冷たい。来年夏の参院選で、政治が変わることを期待したい」と話した。  
反貧困ネットワーク栃木の一員で、弁護士の小倉崇徳さん(仮名)も貧困層の拡大を肌で感じている。「今月上旬にも宇都宮市内で恒例の炊き出しを開いたが、昨年よりも盛況だった。こういった催しがにぎわつのは、複雑な気持ちだ」と語る。

炊き出しは来年以降も続けていく予定だという。田上さんは「心待ちにしている人がいる。温かい物を食べて、新たな気分で年越しを迎えてほしい」と願っていた。  
群馬県桐生市は、東京都中央区銀座のぐんま総合情報センター(愛称・ぐんまちゃん家)で毎年開催している市の観光PRイベント「サロン・ド・G」を、来年一月二十一日に足利市と合同で開くと発表した。  
このイベントは過去七回開催してきたが、他県の市と連携するのは初めて。今年四月に文化庁が初めて選定した「日本遺産」で、桐生市は「かかあ天下〜ぐんまの絹物語〜」に市の街並みなどが、足利市は「近世日本の教育遺産群〜学ぶ心・礼節の本源〜」に足利学校跡などが、それぞれ認定されたことがきっかけで決まった。  
当日は「日本遺産のまち桐生・足利の周遊観光」をテーマに、両市の市長が日本遺産の現状や最新観光情報をトップセールス。世界四大ミスコンテストの一つ「ミス・アース」の今年の日本代表に選ばれた山田彩乃さん(仮名)桐生市出身

### 銀座ぐんまちゃん家での 来月22日 足利市 日本遺産が縁、初

のスピー  
食会など  
や旅行会  
人程度が  
う。午後

2日の  
最大で  
年

東日本  
道路会社

## 県庁北別館が完成

県が、